



建築設備技術遺産

認定第 10 号 不凍水抜き栓

管理者：小樽歴史館

所有者：(株)光合金製作所

不凍水抜き栓は、日露戦争後、満州から伝わったとされており、日本独自の器具として、住宅および設備の変化とともに研究開発されてきた。

昭和中期には水使用箇所は台所1カ所のみであったが、その後、洗面所、風呂など複数カ所に増え、それに適した構造の水抜き栓が開発された。さらに、2、3階への直接給水可能な抵抗の少ないもの、また、水と湯の両方に対応させたものなど、住宅設備の変化に合わせて進化してきている。

今回申請があった不凍水抜き栓は、小樽歴史館に保存・展示されているもので、1950～1960年頃に使われた光式耐寒不凍給水栓、1955～1970年頃に使われた光式不凍給水栓（貯留式）、2002以降に使われている湯水抜き栓である。住宅および住宅設備の変化と時代背景に合わせた水抜き栓の変遷を示すものであり、現物であること、公共施設に展示してあることも評価し、建築設備技術遺産として認定するに値するものと評価した。



代表的な水抜き栓の展示
写真提供：(株)光合金製作所



左から光式耐寒不凍給水栓、光式不凍給水栓（貯留式）、湯・水抜き栓
写真提供：(株)光合金製作所